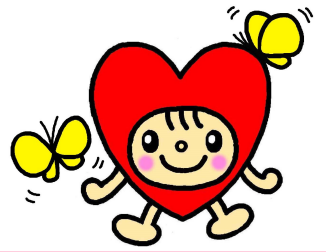




2019年 人権一口講座



Hand in Hand

今年ラグビーワールドカップ、女子ハンドボール世界選手権大会が熊本で開催される。訪日外国人は、2011年東北地震から年々増加し、2018年には3000万人を突破した。

台湾人の若者たちが個人旅行で日本を訪れた際の素敵な話が話題になって知っているのを知った。台湾人の若者たちが駅で迷っていたところ、お酒の匂いを漂わせた日本人のサラリーマンが声をかけてきた。観光ガイドを見ていたとき話しかけられたので、道を尋ねられているのかと思った。しかし、彼は流暢な英語を使い案内してくれた。ホテルへのチェックインが遅れるのを心配して、先にホテルに電話をしてくれた後に、三十分かけてホテルまで送り届けた。別れの際に、台湾人の若者は深々と感謝の気持ちを伝えた。すると、反対に日本人男性から「台湾が日本を助けてくれたこと、本当にありがとう。君達は最高だよ!」との返答がきた。東北地震の際に台湾からの義援金が二百億円以上送られている。この台湾人男性は「この言葉を聞いた時、目が真っ赤になった」と語っている。台湾のネット上では「とても感動した」「あたたかい話だ」「日本人は本当に友好的。私自身も優しくしてもらった事がある」「この日本人男性に感謝します」等の反応があがっている。

この他にも日本を訪れた外国人からたくさん温かい話がネット上にアップされている。
「先週、東京に行った時に民宿を探している途中で、道に迷ってしまった。地図を見ながら民宿までの行き方を探していたら、通りがかった親切なおばあさんが「助けは必要ですか?」と話しかけてきてくれて、とても詳細に行き方を教えてくれた。東京、大阪、場所に関わらず、親切な人はいるんだね。」

「俺達一行八人が熊本の小さな居酒屋に入った時、そのオーナーは俺達が台湾から来た事を知ると、沢山の串焼き、日本酒を大量にサービスしてくれた。最後はオーナーと従業員が身につけていたずきんとエプロンを全部俺達にプレゼントしてくれた。」

「大阪に行った時、探しているものがあって日本の女の子二人組に尋ねた。彼女達は、一緒に何件も回って探してくれた。結局、見つからなかったけど、最後の最後まで「もっと探そうか?」と言ってくれた。本当にありがたかった!」

日本は自衛隊機のレーダー照射問題など国レベルで隣国との関係が緊張状態にある。しかし、このような温かい小さな交流を民間レベルで少しずつ重ねて行くことが国際社会の中の日本のあり方にとって大切なものかもしれない。

今年、沢山の外国の方が熊本の地を訪れるだろう。熊本地震のお礼を含めて「おもてなし」をしたいものだ。女子ハンドボール世界選手権大会のキャッチフレーズは「Hand in Hand 1つのボールが世界を結ぶ」。このテーマのように様々な国の人々が手に手をとって助け合い、平和で明るい未来を子どもたちに残したいものだ。

(熊本市ふれあい文化センター広報紙「かけはし」平成三十一年三月号より)

短いメッセージ 「ナイスシュート」試合で シュートを決めた時 仲間の一言 笑顔あふれる

熊本市・熊本市教育委員会・熊本市人権啓発市民協議会のカレンダー 武蔵中学校2年 藤田 奈央さんの作品より